

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

毎

週金曜日に、鹿屋市体育館を利用してのチームです。チームのメンバーは高齢者が多く、熱中症を懸念して、有料の冷房をお願いしてプレイしていました。気付いてくれたバドミントンの若者が、冷房代を折半でと言ってくれました。私はとても嬉しく、3分の1の料金をいただきました。涼しい中、楽しく運動できた夜のひとときでした。(インディアアカちゃんさん・女性)

血行や新陳代謝の促進による体の健康はもちろん、ストレスの減少や生活の充実感・学力の向上など、スポーツには様々な効果が期待できます。インディアアカちゃんさんが受けた親切は、スポーツで培ったものかもしれません。次の方に親切のバトンタッチをして、スポーツを介した親切の輪を作ってはどうかでしょう。世界中の人々がスポーツに親しむことで、優しさに満ちた世界になることを願ってやみません。

鹿

児島で行われる国体は、昭和47年の第27回太陽国体以来です。日々練習に頑張っている選手の方々に、また運営に関わる全ての人の苦勞が花開くように応援したいと思います。たくさんの方々が鹿屋を訪れると思います。その方々がまた鹿屋に來たいと思うようになればグッド!!(K・Iさん・女性)

「燃ゆる感動がこしま国体」は10月7日〜17日、かごしま大会は10月28日〜30日の日程で、デモンストレーションスポーツを含めると全96競技が実施されました。スローガンである「熱い鼓動風は南から」のとおり、皆さんの声援を受けた選手の方々が躍進し、多くの感動がこの鹿児島ので生まれ、全国に広がりました。改めてスポーツの持つ力は偉大であると感ずることができた素晴らしい国体・大会となりました。これも多くの方のサポートが実を結んだ結果であり、感謝しております。

ば

か踊り、とてもなつかしい響きに思わず笑顔になりました。その当時は、楽しく見物したものです。「ばか」と言葉的にはよくないものかもしれませんが、確かに地域に息づいていて、夏の風物詩の1コマを飾ったことに間違いはありません。今年も台風や大規模な水害も日本全土で拡大していますが、祈ること、願うことで心穏やかに生活していきたいものです。(ユメルメルさん・女性)

9月号のタイムトラベルに掲載した「かのやハンヤ踊り」「ばか踊り」の名称は、昭和38年から平成5年まで30年という長い間使われていたため、ハンヤ踊りよりもばか踊りの方に親しみを感じる人も多いかもしれません。名称の由来である豊作を感謝する祭り「ばか豊穰」は、直訳すると「尋常じやないくらいに豊穰を祈念し祝う祭り」です。今ではあまり使用するのが好ましくないと考えられる「ばか」という言葉ですが、ここでの意味は、若者風という「超」となります。「ばか踊り」「超踊り」。すぐく楽しそうな雰囲気伝わり、とてもいい名称だったのかもしれませんが。これからは「かのやハンヤ踊り」が「ばか踊り」を超える歴史と親しみを持つように市民の皆さんで大切に育てていきたいですね。

朝

夕、秋の気配を感じられるようになりました。夕方も暗くなるのが早くなりました。鹿屋にトンネルが3か所ありますが、無灯火の車が多く、ヒヤツとしたことがあります。車の運転をされる皆様、自分の家族を含め、事故に遭わないよう、遭わせないよう安全運転をお願いします。(K・Nさん・女性)

一般道のトンネル内では、50m先が視認できる状況であれば必ずしもヘッドライトの点灯は必要ないのですが、やはりトンネル内は薄暗く、たとえ自分が見えても相手に知らせることも必要です。「おもいやりライト運動」という、見るだけではなく、見られるための運動や3ライト運動という取り組みもあります。「夕暮れ時は早め・夜間は上向きライト点灯」を実践し、乗る人にも乗らない人にも優しい社会にしていきたいですね。

フォトネタ!



南町のコスモス

10月下旬頃から、南小学校近くの水田で色とりどりのコスモスが見られます。これは収穫後の水田を活用したもので、その様子は秋の訪れを感じさせます。